

## あとがき

解剖学はいかがだったでしょうか？

ヒトの体を学ぶと、世界が少しよくわかるようになります。人の世はヒトの体で成り立ち、自分の体はそのインターフェースになっているわけですから。自分自身のことから世界平和まで、ヒトの体を知っていることは確かな支えになります。

今回はヒトの体を解剖学から形を軸に学びました。働きを学ぶ生理学、分子を学ぶ生化学、神経系に特化した神経科学など、ヒトにまつわる基本的なサイエンスは他にもたくさんあります。学びは続きます。そんなときに得意科目が1つあると頼りになります。本書がその助けになればうれしいです。いや、ほんとうは「解剖学が世界だっ!!」くらいな放言をしておきたいですが、誰かに止められるでしょうね。

じつは医学界限にも都市伝説は少なくないです。怪しい話は原著論文で確かめました。魅力的な逸話は他にもいくつかあったんですが、エビデンスが揃わなくて割愛しました。時代遅れや思い違いや打ち間違いもあると思います。お気づきでしたら、ぜひお知らせください。

解剖学の授業を一緒に担当している同僚や、その授業を受けた学生の海老原さんから、原稿に貴重なアドバイスをもらいました。本書を担当いただいた羊土社編集部の田頭みなみさ

んにはいつも原稿を褒めてもらい、モチベーションを保てました。クリーンな解剖図を描いてくれた吉田壮さん、楽しい挿絵を描いてくれたアート工房さん、クスツと笑える扉イラストや装幀デザイン担当の鳥山拓朗さん、光栄です。編集部「後輩」さんの「ひつじ社員」のイラスト、校正にくたびれると、まねして落書きしていました。

最後に、医学教育研究のために献体してくださった方、遺族のみなさまには、感謝が尽きません。医学生も教職員もみな同じ気持ちです。ありがとうございます。

2023年初夏 村上 徹